

現代住宅作品にみる建築と斜面の関わり方に関する研究

建築デザイン分野

河合美幸

平坦な土地が少ない日本では多くの山林部の開発を必要とし、雛壇造成にみられるように、傾斜した地面を段差に置き換えることによって居住空間を獲得してきた。しかし、自然の斜面との重なり合いの中で生まれる空間の魅力があるはずである。本研究は、斜面地に建つ建築家の設計による住宅作品と斜面の相互関係を分析することで、斜面住宅の特性を明らかにするとともに、建築の大地への応答のしかた、建築のあり方を探る。既往の研究は集合住宅における住戸群の設計に関するものや、住宅建築の「生え方（建ち方）」についてのケーススタディ、断面構成の基本形を導き出しているものなど、単要素に特化したものが多い。本研究では、かたちと空間構成を全体的にみることによって多様な斜面住宅の事例を体系的に評価し、さらに事例検証によって掘り下げた。その結果、建築と地形の相互関係が空間に魅力を与え、また斜面の意味を見出すことにつながるということが明らかになった。

1 はじめに

1-1 研究の背景と目的

建築は敷地を取り巻く様々な環境条件に対応し作られる。その中で斜面は、環境条件や眺望、景観、方向性、流動性などの空間的特質が平地と異なるだけでなく、傾斜する形態は、水平な床を前提としている建築にとって都合が悪い。そのため、人は斜面を水平な面の段差に置き換えることによって居住空間を獲得してきた。その典型的な例が、「雛壇造成」である。しかし、大規模な宅地開発は自然を喪失させるだけでなく、人間のスケールを越えた人工物をつくり上げてしまっているという問題性がある。もっと自然の斜面との重なり合いの中で生まれる空間の魅力があるのではないだろうか。そこで本研究は、斜面地に建つ建築家の設計による住宅作品と斜面の相互関係を分析することで、斜面住宅の特性を明らかにするとともに、建築の大地への応答のしかた、建築のあり方を探る。

1-2 研究の方法

まず、建築の接地のしかたと断面形状より、住宅がどのようにかたちを形成して斜面に対応しているのかを分析する。次に、住宅内外の動線、居室の配置などの空間構成から、斜面の持つ特性をどの程度住宅に採り入れ、それが空間に対してどのように働いているかを分析する。そしてそれらをもとに導いた建築と斜面の関係性を事例の検証を通じて考察する。

2 事例の選定

主に1999年から10年間の住宅雑誌を対象に、以下の条件で事例の選定を行った。

- ①特徴的な敷地条件の第一が斜面地であること
- ②戸建住宅であること（主要用途が住宅）

- ③建築面積が住宅規模であること
 - ④建物のかたちや構成が明確であること
- これにより、対象事例は156作品となった。

3 ヴォリュームとしての斜面住宅

建築が形態的に斜面の勾配や方向性に対して調和的か対比的かという関係性と、またどれくらい相互に影響し合っているかという関係の強さを見出す。

3-1 建築ヴォリュームの接地のしかたと断面形状

■接地のしかたは、接地形式と土地の改変状況によって分類できる（表1）。斜面との関係（態度）として、高床型と張り出し型は斜面の形状に関係なく独立した構成であり、タイプ3aは建築が斜面に従った構成、3b、3cは、住宅を優先させ斜面を調和させた構成、4bは建築が斜面に調和した構成、そしてdは住宅のために斜面を切り崩した、建築に斜面を適合させた構成と捉えることができる。

■住宅の断面形状において、斜面に沿ってセットバックさせたタイプB、D、I、接地面を従えたC、E、F、斜面に反した向きに積層したG、J、その中間のF、そして最も一般的な形状のA、Hに分類できた（表2）。タイプA、Hが全体の約1/3を占め、建築の上下面と

表1 接地タイプ 表2 断面形状タイプ

土地の改変 ↓ 接地形式	斜面			
	造成		掘埋	
	斜面+フラット		切土+重土	
高床型	TYPE 1a (26)	TYPE 1b (0)	TYPE 1c (3)	TYPE 1d (2)
張り出し型	TYPE 2a (6)	TYPE 2b (15)	TYPE 2c (1)	TYPE 2d (7)
接地型	TYPE 3a (4)	TYPE 3b (8)	TYPE 3c (6)	TYPE 3d (26)
埋設型		TYPE 4b (34)		TYPE 4d (18)

断面形状	平屋	スキップ	積層
Type A (22)	Type A (22)	Type A (22)	Type A (22)
Type B (14)	Type B (14)	Type B (14)	Type B (14)
Type C (15)	Type C (15)	Type C (15)	Type C (15)
Type D (9)	Type D (9)	Type D (9)	Type D (9)
Type E (20)	Type E (20)	Type E (20)	Type E (20)
Type F (17)	Type F (17)	Type F (17)	Type F (17)
Type G (10)	Type G (10)	Type G (10)	Type G (10)
Type H (32)	Type H (32)	Type H (32)	Type H (32)
Type I (13)	Type I (13)	Type I (13)	Type I (13)
Type J (4)	Type J (4)	Type J (4)	Type J (4)

もに斜面に沿ったものが15%、いずれかが斜面に沿ったものが40%、斜面に逆らうものは10%程度であった。

3-2 勾配による接地のしかたと断面形状の傾向

■接地点タイプと斜面の傾斜角度の関係より (図1)、タイプ3aとタイプ3bは、全体的に緩い傾斜に分布しており、一方、タイプ2a、2b、2dは平均斜度が大きい。各接地点形式の斜度の上限では、表左側より、住宅の接地点部分のみ造成した接地点性では、接地点型(タイプ3a)は緩やかな斜面に限定され、地面との距離が離れる(タイプ1a)、或いは縮まる(タイプ4b)ほど上限が高くなっている。一方、表右側の敷地全体を造成した雑壇タイプでは、斜度が大きい場所でも接地点型(タイプ3d)の形式がとられており、傾斜角度に関係なく、分布範囲が最も大きく見られる。

このように、斜面を残す場合では、傾斜が急になると内部空間や構造的に接地点が困難になり、浮せるか埋め込ませるかを選択をせざるを得なくなり、接地点のしかたが移行される。

■断面形状タイプと斜度との関係より (図2)、各断面形状タイプの斜度の上限は、タイプEとタイプHが45°以上の急な斜面に対応している。一方斜度の上限が小さいのは、タイプCとJである。緩やかな斜面の場合、1フロア分の段差が必要ないためタイプB、Cの構成がとられ、勾配が急になると階を増やすことによって対応できるタイプD、Eへと移行する。

4 居場所としての斜面住宅

建築が空間的にどのくらい斜面を取り入れているか、またそれがどのように働いているか、という斜面と空間構成の関係性の分類が可能となる。

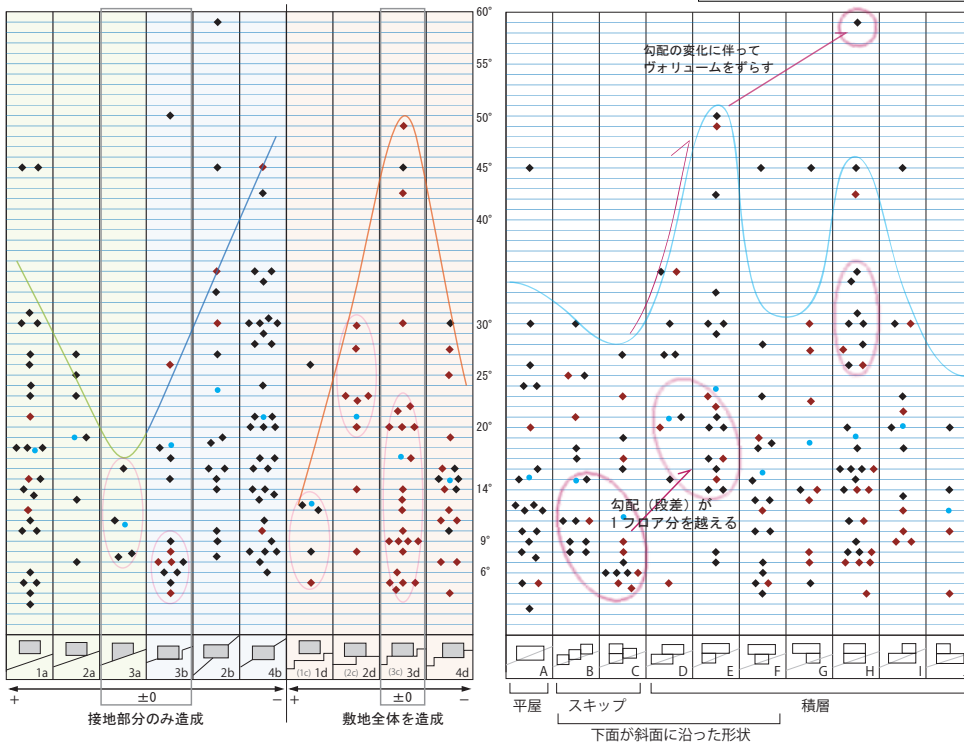


図1 接地点のしかたと傾斜角度の関係

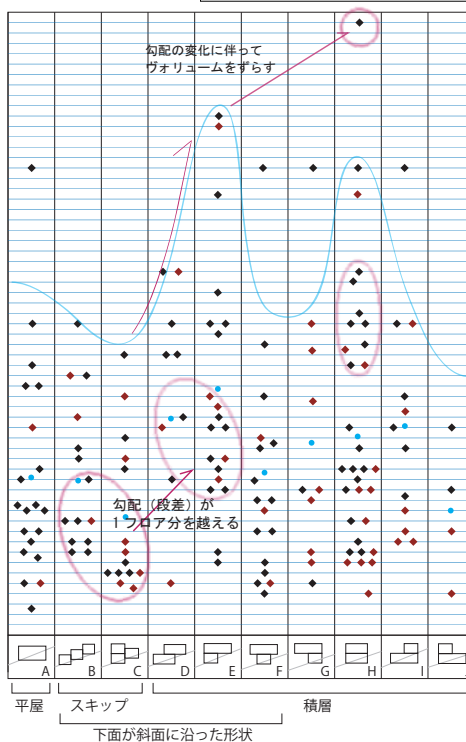


図2 断面構成と傾斜角度の関係

4-1 住宅動線と斜面の関係

斜面方向に対するアプローチの向きと接続方法、住宅内部での動線を分析する。まず、アプローチの向きでは、斜面の「下から」(82作品)が最も多く、続いて「上から」(64作品)、そして「直交したアプローチ」(20作品)であり、斜面の方向に沿う傾向がある(表3)。接続方法としては、動線要素を介して接続するものが地続きで直接アクセスするアプローチと同程度見られ、斜面が生み出すレベル差、接地点性の低さが影響していることが分かる(表4)。また、その中で2通り以上のアプローチ方法をもつものが10作品あった。

次に内部動線を掛け合わせた結果(図3)、地面から直接エンタランスにアクセスし上昇する「下から/△」(33作品)階段やスロープでアプローチして上昇する「下から-階段/△」(25作品)、「上から/▽」(15作品)や、ブリッジなどを介してアプローチし下降していく「上から-ブリッジ/▽」(12作品)は全て、斜面方向に従い外部動線に連動して内部の室を配列した構成であり、この内外同一方向パターンが全体の半数以上を占める。また対極的な構成として、アプローチの向きと内部動線の向きが連動せず、折り返すように逆行する内外逆方向パターンがある。そして、直交する横からのアプローチをとる構成は、動線方向が一体的でない内外独立パターンといえる。(図3)

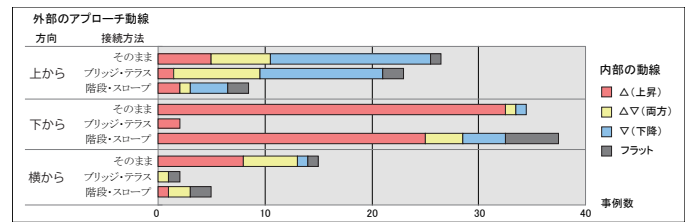


図3 外部と内部の動線

表3 アプローチの方法

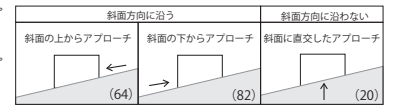


表4 接続方法

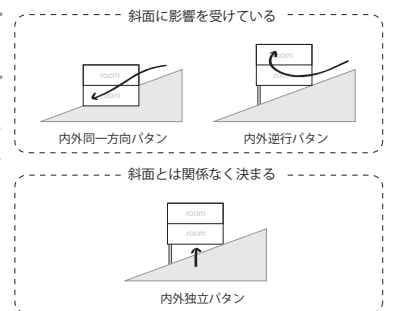
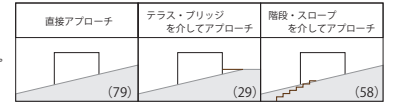


図3 外部と内部における動線の関係性

内外独立パターンは全体の1割程度にとどまっており、残り9割は内外同一方向パターンや内外逆方向パタンのように斜面の方向性によって動線が決定していることから、斜面の『方向性』が住宅の内外に渡る全体構成を秩序づけていることがわかった。

4-2 住宅内部の空間構成

表5に「居室の断面構成」、「眺望の視点場」と接地性、断面形状、アプローチの方向の関係をまとめた。表左ほど斜面の方向性に従った内部構成であり、右ほど独立した構成である。斜面の上からアプローチし下降する構成は、エントランス→リビング→寝室というプライバシーが確保されやすい配置と高い位置からの眺望が同時に成立するため、斜面の『方向性』と『レベル差』が住空間にプラスに働いている。このため、ほとんどがアプローチは最短距離をとるが、上記の構成にするために外部で迂回するアプローチ方法も見られた。

また、2つ以上のアプローチをもつものは、一方が最下階（上昇）にありもう一方が最上階（下降）にあることから、異なるレベルからアクセスすることで利便性を図っている。中でも3dと4dに関しては、雑壇造成によって分断されてしまった空間を、住宅を介してつなぐことで、斜面の『連続性』を取り戻している。

5-1 建築と斜面の関係性

接地のしかたと断面形状を掛け合わせたのが表6であり、建築と斜面のどちらがどの程度融通を利かせているか、勾配や段差が利用された居室の配置がなされているか、動線の取り方が斜面の方向性にとま

表6 斜面との関係性

断面タイプ	地形が建築に影響をもたらす			建築が地形に影響をもたらす			地形が建築に影響をもたらす			
	地形が建築に影響をもたらす	建築が地形に影響をもたらす	地形が建築に影響をもたらす	地形が建築に影響をもたらす	建築が地形に影響をもたらす	地形が建築に影響をもたらす	地形が建築に影響をもたらす	建築が地形に影響をもたらす	地形が建築に影響をもたらす	
Type A	TYPE 3a	TYPE 4b	TYPE 3b	TYPE 4d	TYPE 3d	TYPE 1c	TYPE 2c	TYPE 1a	TYPE 2a	TYPE 2b
Type B	ak-1	al-5, sa-4, fu-1, ta-6	ki-5	sa-2	os-1, to-1	en-2	ta-11	so-1, ni-2, is-1, yo-2	mi-4	jo-3, ta-14, ut-1, ka-2, ir-1, ya-4
Type C	un-1	su-1, ta-1, sa-5, da-1	ok-1, ha-2	ik-1, ku-3, mo-2, ka-3	na-1, ta-2	ta-1, ni-4, mi-3, ta-12, ku-1, ta-2, ta-4, ta-5, ta-6, ta-7, ta-8, ni-1, ar-2, is-2	sp-2, ha-3	mi-5	oo-2, ra-1	mi-10
Type D	ut-2	ut-2, sp-3, ku-2, ni-3, al-2	ca-1	ev-1, ki-4	da-2, ho-1, as-1	sp-1	ya-1	an-3	ki-3, an-1	la-1, ko-3, cu-2
Type E	ha-4	al-4, qu-1, sa-1, ma-3	ca-1	ev-1, ki-4	da-2, ho-1, as-1	sp-1	ya-1	an-3	ki-3, an-1	la-1, ko-3, cu-2
Type F	si-1	bi-1, mi-9, fu-1, en-1	hi-1, ki-1, yo-4, ko-2	ki-2, mi-6	yo-3, ab-1, ta-3, ma-1	ki-6	gw-1	be-1, ta-13	se-1	ta-7
Type G	mi-7	pe-3, ch-1, sa-3, jo-2, gr-1, al-1	wi-2	su-4, ed-1, ta-9	fu-3, si-2, ma-4	an-4, su-2, ma-4	jo-1, ri-2, ya-2, yo-1	ha-5, ma-1, jo-1, ri-2, ya-2, yo-1	se-1	ta-7
Type H	ku-3	ku-3	ku-3	ku-3	ku-3	ku-3	ku-3	ku-3	ku-3	ku-3
Type I	ku-3	ku-3	ku-3	ku-3	ku-3	ku-3	ku-3	ku-3	ku-3	ku-3
Type J	ku-3	ku-3	ku-3	ku-3	ku-3	ku-3	ku-3	ku-3	ku-3	ku-3
Type K	ku-3	ku-3	ku-3	ku-3	ku-3	ku-3	ku-3	ku-3	ku-3	ku-3

ているか、という指標のもと斜面との関係性の傾向を割り出した。横軸（接地のしかた）において、表中央ほど、建築が地形に影響をもたらしているもの、そして左右の端ほど、地形が建築に影響をもたらしているもので、そのうち左側が斜面に従うもの、右側が斜面に逆らうものである。また縦軸（断面形状）は、表上ほど斜面に沿った構成、下ほど斜面に沿わない構成である。その結果、表の左上から右下にかけて、建築が地形を「利用する」、地形に「調和する」、地形に「対応する」、地形を「捨象する」、地形に「対比する」という5つの関係性が見出された（表7）。

ここで、事例を検証することによって、具体的な融通の利かせ方や空間について分析する。

表5 居室の断面構成

断面タイプ	Eが最上階にある ▽		Eが中階にある △▽		Eが最下階にある △		E = L = BR		
	E-L間にBRがない	E-L間にBRがある	E-L間にBRがない	E-L間にBRがある	E-L間にBRがない	E-L間にBRがある	E L BR	E L BR	
Type B	[1a] mi-1 ■ w □ = □ [4d] at-1 Op □ = □ [4b] al-5 × p * 2 □ = □	[1a] oo-1 ● w □ ≠ □ * 2 [2b] ut-1 ■ w □ ≠ □ [3b] ki-5 ■ p □ ≠ □ * R	[2a] mi-4 ● p □ ≠ □ * R [4b] fu-1 ● p □ ≠ □ * R [4b] ta-6 ■ p □ = □	[2a] mi-4 ● p □ ≠ □ * R [4b] fu-1 ● p □ ≠ □ * R [4b] ta-6 ■ p □ = □	[1a] sa-1 ● p □ ≠ □ [2b] ya-4 ● p □ = □ [3d] ta-1 ● p □ = □ [3d] os-1 ● p □ = □ [3a] ai-1 × p □ = □	[4b] al-5 × p * 2	[1a] wa-1 ■ w [2a] mi-8 ■ p * 2 [4b] ma-2 Ow	[2a] mi-8 ■ p * 2	[E L BR]
Type D	[3d] ta-5 Op [4b] sa-4 Op	[2b] ta-14 Op * R [2b] jo-3 ■ p	[3d] ta-14 Op * R [2b] jo-3 ■ p	[3d] ta-14 Op * R [2b] jo-3 ■ p	[3d] ta-1 Op [4b] pe-1 Op	[1a] wa-1 ■ w [2a] mi-8 ■ p * 2 [4b] ma-2 Ow	[2a] mi-8 ■ p * 2	[E L BR]	
Type C	[4b] ut-2 ● p * 2 * R [4b] ut-2 ● p * 2 * R [3d] ta-8 Op * 2	[2b] ir-1 ■ w	[1a] so-1 ● p [4b] ta-11 ■ p	[1a] so-1 ● p [4b] ta-11 ■ p	[3a] un-1 ● p [3b] ok-1 ■ p [3d] ta-1 ● p [3d] ni-4 Op [3d] mi-3 × p [3d] mo-1 × p	[2a] oo-2 ■ w [3d] ta-4 ● p [3d] ka-2 ● w [3d] ta-8 Op * 2 [3d] an-2 × w	[2a] oo-2 ■ w [3d] ta-4 ● p [3d] ka-2 ● w [3d] ta-8 Op * 2 [3d] an-2 × w	[E L BR]	
Type I	[3d] an-2 ■ p [4b] ku-2 ● p [4b] sp-3 ● p	[1a] is-1 ■ w	[3d] ta-1 × p [3d] ta-12 ● p □ = □ [3d] ku-1 ● p [4b] te-1 ● p □ = □ [4b] su-1 Op	[3d] ta-1 × p [3d] ta-12 ● p □ = □ [3d] ku-1 ● p [4b] te-1 ● p □ = □ [4b] su-1 Op	[2b] ni-10 × p [3b] ha-2 ■ p [4b] da-1 Op [4b] sa-5 ■ p * R	[2a] ra-1 On [3c] is-2 ■ w	[1a] ma-5 ● p [3b] ki-4 ● w [3d] ev-1 ● w [4b] al-4 ● p * R [4b] qu-1 Op	[E L BR]	
Type E	[3d] an-2 ■ p [4b] ku-2 ● p [4b] sp-3 ● p	[2b] ka-4 Op [4b] al-2 Ow [1a] yo-2 ■ w	[1a] ni-2 ● p [4b] ni-3 ■ p	[1a] ni-2 ● p [4b] ni-3 ■ p	[2b] ni-10 × p [3b] ha-2 ■ p [4b] da-1 Op [4b] sa-5 ■ p * R	[2b] ni-2 ■ w [2d] mi-5 × w [3d] ni-1 ● w [4b] ha-4 Ow	[2d] ni-2 ■ w [3b] ca-1 ● p [4b] oz-1 ■ w [4b] ja-1 Ow [4b] qu-3 Op * R	[E L BR]	
Type F	[4d] ak-1 Op [1a] ha-3 ● p	[1a] ya-1 ■ w	[2a] ya-3 ● p [2b] ki-3 ● p [3d] da-2 Op [3d] ho-1 ● p	[2a] ya-3 ● p [2b] ki-3 ● p [3d] da-2 Op [3d] ho-1 ● p	[1a] be-1 × p [2b] la-1 Ow [2b] ta-13 Ow [3c] ki-5 ■ p [3c] ko-1 × w [4d] yo-3 ● p	[1a] hi-1 ● w * 2 [4b] pe-3 ● w [4d] su-4 ● w	[E L BR]		
Type A	[4d] ku-3 ● p	[1c] ma-4 Ow * 2 [1d] an-4 ● p * 2 * R	[1c] sp-1 Op	[1c] sp-1 Op	[1a] ma-5 ● p [1a] ma-6 ● p [1a] no-1 ● p * R [1a] ni-1 ● p [1a] ni-2 ● p [1a] ta-2 ● w [1a] ya-2 ■ w [1a] ya-2 ■ w [1c] ma-4 Ow * 2 [1d] an-4 ● p * 2 * R	[2a] ni-2 ■ w [2b] ta-7 ● p [3a] mi-7 ■ w [3b] wi-2 ● p [3d] fu-3 ● p * R [4b] ch-1 ● p [4b] sa-3 ● p [4b] jo-2 ■ n [4d] ed-1 ● n [1d] su-2 ■ p	[E L BR]		
Type H	[3d] na-1 Op * R [3d] ta-2 × p * R [4b] mi-9 Op * R [4b] bg-1 ● p	[4b] fu-1 Op [4b] en-1 Op * 2 [4d] ka-3 ● p * 2 [4d] mo-2 ● p	[4d] ka-1 ■ w * R [4b] st-1 ● p [4b] an-5 × p * R	[2b] an-1 ● p * R [3a] si-1 × p [3b] hi-1 ● p [3b] ki-1 Op [3b] yo-4 Op	[2b] an-1 ● p * R [3a] si-1 × p [3b] hi-1 ● p [3b] ki-1 Op [3b] yo-4 Op	[1c] gw-1 Ow [2b] au-2 On [1a] ta-13 Ow [3c] ki-5 ■ p [3c] ko-1 × w [4d] ab-1 ● p * R [4d] ta-3 × p [4d] ma-1 × p [4d] mi-8 Op [4d] ka-3 ● w * 2	[4b] al-1 ● p * R [4d] ta-3 × p [4d] ma-1 × p [4d] mi-8 Op [4d] ka-3 ● w * 2	[E L BR]	
Type J	[2b] mi-2 ● p [2d] yo-1 ● p [3d] ya-3 ● p	[4b] wi-1 Ow	[4d] mu-1 ● p	[4d] mu-1 ● p	[1a] al-3 ■ w [1a] se-2 Op [2b] se-2 ● p * 2 [2b] se-2 ● p * 2	[1a] al-3 ■ w [1a] se-2 Op [2b] se-2 ● p * 2 [2b] se-2 ● p * 2	[E L BR]		

- 表記のしかた
- [接地タイプ] 事例No
- 凡例
- 眺望の視点場
- 全室から
 - 全階から
 - バリックから
 - ◆ 上階から（下から見える）
 - ◇ 下階から（上から見えない）
 - × なし
- プライベート空間の配置
- p BRがE-L間がない
 - 配置的に通ぎける
 - w BRがE-L間にある
 - n BRがE-L間にある
 - 開いた状態
- （一室空間における）空間の分節
- = □ 全体が把握できる
 - ≠ □ 連続した2つの空間で視線が通る
 - ≠ □ 室同士が分離する
- アプローチ
- *2 アプローチが2通り以上
 - *R まわり込んでアプローチ

5-2 事例の検証

事例の検証を行った作品（表7）の中で、斜面との関係性がそれぞれ異なる、「ヴィラNM」、「bird house」、そして造成によって斜面の特性を失った敷地に建つ「SLIDING HOUSE」についての分析を行う。

un-1は最も斜面との結びつきが強く、斜面のかたちや規模が住宅のヴォリュームや身体性と適合し、無理することなく成立している。mi-8では自然のままでは使いにくい土地を最小限の操作によって変換することで、空間を物にしている。一方、類型と一致しないものにおいて共通するのは、造成に対する批判的な視点からのアプローチや、斜面の持つ有利性を人工的に蘇らせていることであり、ta-8では、断面構成によって『レベル差』を克服し、住宅を介して斜面の『連続性』を手に入れている。

表7 各性質の定義

地形を利用する
地形の特性を利用することで地形が建築にプラスに働いているもの
地形に調和する
建築が融通を利かせながら地形にプラスに働きかけるもの
地形に対応する
建築が地形の影響を受けているもの
地形を捨象する
建築が地形を無視して存在しているもの
地形に対応する
建築によって地形がより強く表れるもの

表8 事例検証の作品一覧

No.	作品名	設計者	地形との関係性の傾向
mi-7	PUT	宮本佳明	利用する
un-1	ヴィラNM	UNスタジオ	利用する
al-5	トリョ・ハウス	アルヴァロ・シザ	利用する
sa-1	ユニットプランの家	坂倉準三	利用する
mi-4	元階段の家	宮本佳明	利用する
mi-8	bird house	宮本佳明	調和する
sa-4	北向斜面住宅	三分一博志	調和する
te-1	熱海のステップハウス	手塚貴晴+手塚由比	調和する
mi-9	富士河口湖の家	宮崎浩	対応する
ma-6	マティアス・クロツ	ラルル郎	対応する
se-1	ジョン・ゴッドセル	キューの家	対応する
ta-7	廊の家	武井誠+鍋島千恵	対応する
na-2	—	中山真琴	対応する
ta-8	SLIDING HOUSE	田島則行	対応する → 調和する
ko-1	アスタノイエ	小泉雅生	捨象する → 調和する
su-2	松山の住宅	末光弘和+末光陽子	捨象する → 調和する
mi-5	SHIP	宮本佳明	対応する → 対応する
ka-1	G-house	釜淵誠司+針谷將史	対応する → 対応する
ri-2	デザート・ノマド・ハウス	リック・ジョイ	対応する → 捨象する

6 結論

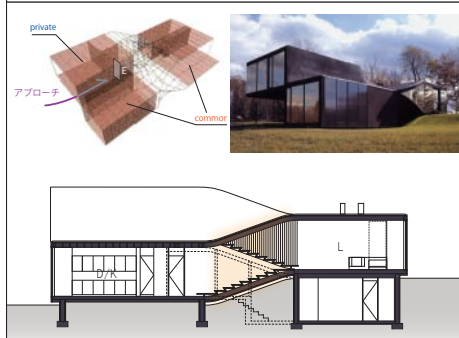
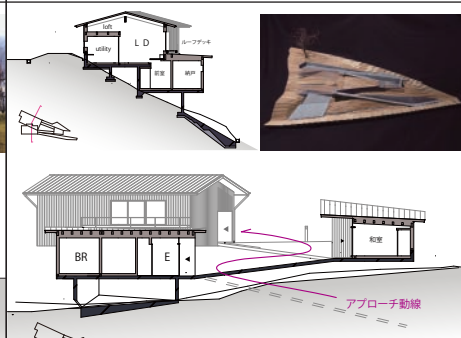
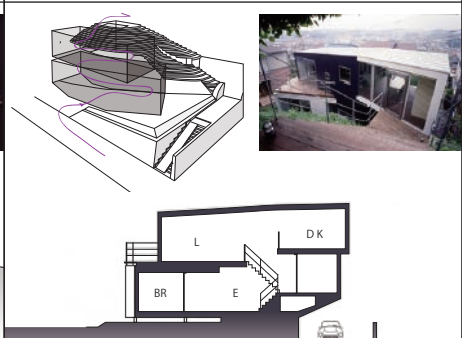
以上のように、建築と斜面の関係性や関係の強弱を読み取ることができ、また、同じ関係性の類型からも多様な空間が形成されていることが明らかになった。その中で、地形を利用するものや地形に調和的なものは、斜面をポジティブに捉え、積極的に住宅にとり入れることで斜面の空間的特質に加え、勾配、レベル差という形態的特質が人のスケールにまで落とし込まれ、デザインに強く関与する。また、斜面に対比的なものは、地面と建築の間に生じた差異によって、斜面であることの認識につながる。これらは地面と関係を持つことで、そこに住まうことの意味を感じさせてくれるものである。斜面は設計の大きな手がかりになり、建築が融通を利かせながら地形の特性を物にすることで、空間に場所性という価値が見出される。つまり、建築と地形の相互関係が空間に魅力を与える。

■類型とは異なる関係性を持つ住宅の可能性

人間のスケールを越えてしまった人工物に対して、一度失った地形の特性を呼び起こすことで個性を見出している。これらのように類型と異なる関係性を持つもの、分類しえないものこそが今後、重要になってくるといえるだろう。

[参考文献]

野出木貴夫「斜面集合住宅研究 —斜面の分析と集合住宅の形態論的考察」
菊竹清訓「斜面の意味」『新建築』1979年7月号

un-1 ヴィラ NM / UNスタジオ	mi-8 bird house / 宮本佳明	ta-8 SLIDING HOUSE / 田島則行
地形を利用する	地形に調和する	地形を捨象する → 地形に調和する
 <p>■空間構成 地形はレベルの異なるフラットな面とそれが傾斜面でつながれた状態になっており、その地形を利用してヴォリュームを2つに分離してフラットな土地に置き、それを斜面の勾配に沿った階段でつないでいる。その動線の続きとして2階が丘の上に持ち上げられる。スキップフロアの構成になっており、斜面の勾配とレベル差が階段のスケールが一致したことによって実現された空間である。</p> <p>■居室の配置・アプローチの方法 2階部分の浮いた下が駐車スペースとして利用され、庇のついたエントランスの役割も果たす。居室は「E\L\BR」の配置がとられ、床高の変化に伴って、景色の見え方が少しずつ異なる。</p>	 <p>軽快な基礎と上部構造、地面や木にひっかけるように接地している鳥の巣 (bird house1) のような住宅である。 地面や木にできるだけ手をつけたくないことが、地面への接地のしかたの決定に起因している。</p> <p>■アプローチの方法 斜面の斜め下からスロープを介してアプローチする。基礎をつら折れに設置することで、アプローチ動線にもなり、住宅の離れや上下2つの前面道路に対してつなぐ役割を果たしている。 ヴォリュームを細分化することで、上部構造が軽くなり基礎の軽減 (= 地面への配慮) に役立ち、また、各住棟が木々の中に極めて自然に近い状態で存在する。</p>	 <p>接地性や断面形状から判断すると斜面に対応する類型に分類されるが、この作品は敷地形やレベル差に合わせたヴォリュームを形成し、また動線によって造成によって分断された土地をつないでいる。敷地内一番高いところまで6m以上の段差があり、すでに擁壁で固められている状況を利用して、建物と擁壁に沿って建ち上がるような形態としている。</p> <p>■アプローチの方法 主に段差の下側からアプローチするが、上側にも細い道路が通されており、両方からのアプローチが可能となっている。</p> <p>■空間構成 スキップフロアの居室を上がっていくにしたがって、敷地の上部まで登りつめるような断面構成としており、シークエンスが考えられている。</p>
関係のある斜面の空間的特性・形態的特性		
斜面のレベル差、勾配、規模とフラットな土地との組み合わせが、プログラムやヴォリューム構成の仕掛けとして利用される 地形の 勾配 を利用する 地形の 形状 を利用する 地形の 連続性 を利用する	急勾配を、人間の身体性に基づきつづら折れのスロープに変換する 斜面の 勾配 を克服する レベルの異なる上下の道路を、動線によってつなぐ 斜面の レベル差 を克服する	スキップフロアによって動線がつづら折れになって上段まで続く 斜面の レベル差 (勾配) を利用

討 議 等

◆討議 [鈴木広隆 教授]

空間構成、勾配以外の接道状況や方角との関係もあると思うが、どうだったか？

◆回答：方角との関係は調査したが、偏りが見られなかったため関係ないと思われる。
接道状況に関しては、地域によって違いがありすぎて分類できなかった。

◆討議 [横山俊祐 教授]

「事例の検証」より、5種類の関係性のどれもが良いように聞こえるが、どれもおもしろいのか？その中でどれが良いのか？

◆回答：関係の強いものほど良いという評価をした。
『捨象する』タイプは斜面との関係が弱く、斜面を活かしていないため良い評価はしていない。「事例の検証」では、斜面との関係性がある『利用』『調和』『対比』の事例を取り上げた。中でも『利用する』タイプは斜面地であることを最も活かしているために良い評価をし、『対比する』タイプは斜面と何らかの関係もっているために（良くも悪くもない）それなりの評価をした。

◆討議：「何らかの」とか、結論で述べた「魅力」とか、表現が曖昧。もっと具体的にどう良いのかを言うべき。

◆討議 [横山俊祐 教授]

事例の un-1 は床が斜めになっているが、どのタイプに分類されているのか？

◆回答：接地タイプは「地形をいじらずそのまま接地させているタイプ」で、断面形状タイプは「(スキップフロアの) Cタイプ」

◆討議：斜めの床は分類に入っていないのは何故か？
分類の精度をもっと考えられたのではないか？

◆討議 [嘉名光市 教授]:

同じことを思ったが、(雛壇造成を問題視しているわりに) 分析では住宅の中に雛壇をつくっているものばかりまとめている。けれども、最後の事例検証では、スロープの事例がよく取り上げられていて、それをおも

しろいと感じているのは分かった。

◆討議 [嘉名光市 教授]

斜度についても、分類しているのか？坂の形状（反り方）によって変わってくるのでは？平均斜度で見るのは本当に合っているのか？

◆回答：基本的に斜度がほぼ一定なものが多く、中には「途中までフラットで途中から斜面」などという斜度に変化する事例も例外として入っている。

◆討議：その「例外」が本当は面白いのかもしれない。